

No. 3

2023/11/24

小野友道の

お節介な戯言



手洗い（3）一指の股の物語

指と指の間をそのまま指間と呼ぶ。今回は第3指間の話である。第3指と4指の側面とその指の付け根部分の3つに囲まれた開放空間である。第3指間が他の指間と比べていつも狭いのお気づきだろうか。無意識に万歳などしている人の手を見ると、多くの場合他の指間が開いているのに比べ第3指間はほぼ閉じている。解剖学的にも伸展筋の位置関係などが関係しているらしい。元筑波大学皮膚科教授故上野賢一先生はこれを気にして「第三指間狭小現象」と名付けた。皮膚科医としてはこの狭い指間が少しばかり気になるのである。手洗いや水仕事をしたあと手の拭き方がいい加減であると、この狭い指間の付け根に水分が残存することになる。これを繰り返していると狭い第3指間の付け根部分は湿潤環境となり、それはカビ、特にカンジダにとっての高級住宅となる。我々皮膚科医は第3指間の付け根にびらん、紅斑などがあると一瞥しただけで「カンジダ性指間びらん症」の診断を下すことができるほど特徴的な所見である。患者さんにはタオルなどでしっかり水分を拭き上げること、場合によってはヘアードライヤーで乾燥させることを勧める。もちろん抗真菌剤含有軟膏を処方した上での話である。

もう一つ指の股の皮膚病がある。ご存じ疥癬である。疥癬虫というダニが寄生して発症する、とてつもなく痒い。このダニに感染するとダニは皮膚の薄そうな部位の角層にメスダニが潜り込み角層にトンネルを掘り卵を産むのである。ダニも硬い部分の皮膚よりも角層の薄いところから潜り込む。指間はそのトンネル掘りが好む部位なのである。疥癬は感染してから2、3か月で、そのダニ成分などによるアレルギー反応として夜も寝られぬ位痒い皮膚病となる。皮膚科医は強いかゆみとブツブツ（丘疹）があり、家族にも同様の症状がある患者さんの場合にならざる指間を開き、そこに角層が混濁していたり、丘疹がないか確認する。それがあればまず疥癬を疑い角層部分を少し採取し、顕微鏡で疥癬虫やその卵を見つけ出せば診断確定である。

啄木の「はたらけど はたらけど猶 わが生活(くらし) 楽にならざり じっと手を見る」ではないが、皮膚科医はじっと指の間まで診なければならない。